

# こくりゅうだよ



大阪府立池田高等学校2年 東 美緒

「最近暑いですね。ハワイに行きたいです。」

## 大阪府北部を震源とする地震について 災害のお見舞い

2018年6月18日に発生しました大阪北部を震源とする地震で、犠牲になられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。

当センターも地震の影響により、一時閉館となりました。現在、復旧作業及び更なる地震対策を進めながら開館しています。今後は災害時の情報発信等、さらなる対策に取り組んでいきます。

皆様のご無事と、被災地域・被災者の皆様の一日も早い復興をお祈り致します。





第1回講師 孫 美幸さん

第1回目の5月10日(木)は、講師の孫美幸(そん みへん)さんから、ご自身やご家族の歴史や多文化共生教育の実践についてお話いただきました。なかでも、韓国から来られ日本語がほとんど分からない状態で子育てをされた孫さんのお母さんのご経験や、「師匠」と呼んでいる二人のお子さんから得た学びについてなど、身近な人たちのお話はすーっと心のなかに入ってくるような感覚で聞くことができました。「知識で分かっているつもりでも、実際のところは分かっていたんだなと感じた」「改めて日本の社会を客観的にみる、考える時間をつくろうと思った」などという感想が聞かれました。



第2回講師 富岡 美知子さん

第2回目の5月17日(木)、異文化コミュニケーショントレーナーの富岡美知子さんと共にワークショップを通じて「価値観」や「偏見」などについて考えていきました。ある物語の中で誰に一番共感できるか、というワークでは、参加者によって意見が実に様々で、個人の価値観がいかに多様であるかを体感しました。また、日本とデンマークの子ども向けの本を読んで、それぞれの文化において「ちがひ」がどのように理解されているのかを比較したりしました。無意識に行われる人種差別行動「マイクロ・アグレッション」(たとえば「〇〇人ってこうだね」など、本人に悪気はないが偏見や差別意識を含んだ発言)についても学び、「初めて知る言葉だった。」「もっと知りたいと思った。」などの意見が出されました。

第3回の5月24日(木)は、とよなか国際交流協会の取組み紹介と、現役ボランティアの皆さんからの活動紹介・交流などを通じて、ボランティア活動についてのイメージを高める機会となりました。活動紹介をしてくださった「しょうない おやこでにほんご」と「多文化保育にこにこ(金曜日)」の皆さんの発表からは、活動に対する真摯な想いや毎週の楽しい様子が伝わってきました。現役ボランティアの方との交流では、新しいボランティアさんの積極的な質問で盛り上がりしました。

新しいボランティアの皆さんの今後の活躍に期待しています！

## 2018年度多文化子育て 支援ボランティア

### 養成講座を

開催しました！！



## コラム 外国人相談あれこれ(第48回)

吉嶋かおり(外国人のための多言語相談サービス・相談スタッフ)

インターネットやSNSが浸透し、利用者は世界中に広がっていますが、移住者の利用率もやはり高いと思います。スマートフォンがあれば、母国にいる家族や知人と、いつでも気軽に顔を見て話ができるようになったため、欠かせない物になっているでしょう。メールやSNSの発展は、相談にも変化をもたらしています。私が専門とする心理臨床においても、メールやチャットによる相談が特に若い人々の間で利用され、その手法や効果が検証されるようになってきました。私自身、講座やスーパービジョンを、グループビデオを通して受けていて、遠くにいる講師や仲間と、自宅にいながら学び合える便利さを享受できています。

当協会の相談でも、最近はメールやSNSでのやりとりが増えてきました。メールやSNSだけでアクセスしてきた相談者に具体的な対応は難しいのですが、面談を踏まえて、事務的なやりとりについては、相談者とメールやSNSで連絡をとることがあります。経済状況が厳しい相談者にとっては、センターまで来館する交通費の負担が大きい人が少なくないので、できるだけ負担がないよう、配慮したいと思っています。また、相談日(金曜日)に仕事で来ることができない相談者も多くいて、仕事を休むことはそのまま給与が減る場合もあるので、彼女・彼らの生活が維持できるかたちで相談に対応できればと考えています。

スマートフォンのおかげで、書類の確認も格段に便利になりました。自治体などから受け取る文書が、どのようなものかわからないという相談は多いのですが、以前はコンビニからファックスで書類を送ってもらっていました。最近は、スマートフォンで写真を撮って、SNSやメールで送ってもらっています。相談者は簡単に送ることができ、こちらもすぐに確認できます。ネット環境の発達、相談者への対応だけでなく、関係機関などとのやりとり、特に弁護士との連絡に用いるようにもなりました。忙しい弁護士は電話ではなかなか連絡が付きませんが、メールであれば、確実にやりとりができ、双方にとって事務的にスムーズになっています。

便利さの一方で、メールやSNSでの対応があまりに増えてしまうと、相談体制としても見直しが必要になるかもしれません。面談や電話であれば、時間枠が決まっています、相談者もそれを承知してもらえますが、メールやSNSは時間を問わないので、対応可能な範囲を超えて相談が寄せられてしまう可能性もあります。また、その独特なコミュニケーションの関係上、対応する内容や範囲は、面談や電話とはまた違ったものになるでしょう。面談や電話以外の相談対応の方法が、情報環境の発展に応じて、今後どのように変化していくのか、私には想像ができませんが、いずれにせよ、状況に応じ柔軟に変化させていく姿勢は重要なのだと思います。



## ＼Youは何しに国流へ？／ 第10回 センターで活動している人を紹介します☆

仕事で海外に関わった経験があり、何らかの形で国際交流を続けたくて、2012年度の日本語ボランティア養成講座に応募しました。15年前に仕事中に脳内出血で倒れ、移動は今も電動車椅子に乗っています。当時はリハビリをする気力すら起きず、1年経って初めて「このまま死ぬのは悔しい。もう一度歩きたい」と夢と目標が持てるようになりました。

今は活動を週3日に絞っていますが、日曜日の「にちようがちゃがちゃだん」は「わからないことはすぐに聞く・次回に持ち越さない」スタイルで自分にも合っているなと思います。疑問を持ったその場で考える

ことは、学習者もボランティアにも学びになりますし、一度答えを出してみることに意味があると思います。もちろん、翌週訂正することもあります(笑)。

そして病気になり記憶障害が残ったことで、「記憶がなくなる前に…」とすぐに行動に移すようになりました。その選択が私の居場所を作ってきたし、これからも作っていくんだと思います。ボランティア仲間に「言葉がはっきり発音できるようになりましたね」と声をかけられた時はやっぱり嬉しかったですね。ここに来るようになったことで、私の目の前はパッと広がり、夢と希望を持ちながら生活を送っています。



日本議交流活動  
にちようがちゃがちゃだん  
とよなかにほんご木ひる  
ボランティア

ふじわり こやし

藤原 幸司さん

(今回のインタビューは「にちようがちゃがちゃだん」の活動についてお伺いしました)

### 子どものための 学習支援ボランティア 養成講座2018



第1回講師 阿部寛さん

子どものための学習支援ボランティア養成講座が5月18日、25日の2日間の日程で開催されました。

初日は社会福祉士の阿部寛さんを迎え、ご自身の生い立ちやこれまでの様々な子どもたちとの出会いを話されました。“子どもたちと関わる中で、自分自身が進むべき道を子どもたちが示してくれた”という阿部さん。一方的に支援する側とされる側に分かれるのではなく、共に悩みながら進んでいく。子どもに関わる活動に必要なお話しをしていただきました。

2日目は釜ヶ崎で長らく子どもの支援に関わっていらっしゃるNPO法人こどもの里理事長の庄保共子さんにお越しいただきました。20代のころ釜ヶ崎を初めて訪れた庄保さん。当時も今も、釜ヶ崎の子たちにはほかの地域の子たちにはない眼の輝きがあると庄保さんは言われます。様々な背景を持ちながらも、釜ヶ崎の子どもたちの眼は実に子どもらしい、きらきら輝いた眼をしている。その瞳に魅せられ、半世紀にわたり活動をしている庄保さんのお話しに受講された方は圧倒されていました。庄保さんの“子どもの最善を考える”という信念は、時代や場所が変わっても揺るがない普遍的なものだと思います。



### 「みをつくし料理帖」シリーズ (高田郁・角川春樹事務所)

みお

舞台は江戸時代。水害で両親を亡くし天涯孤独の漣は、訳あって奉公先のご寮さんと大坂から江戸に出て料理人として腕を振るいます。漣が作る料理は、食べる人のことを考え、仕事に疲れた人たちの憩いとなっています。そんな漣の作る料理を読んでいると、いつもの手抜き料理を改め丁寧に作ってみようという気にさせられます笑

いつも料理のことを考え、周りの人のことを考えている漣ですが、進む未来に迷うことが幾度となくあります。そんな時、いつも漣に寄り添ってきた青年医師が彼女に告げました。「悩み、迷い、思考が堂々巡りしている時でも、きっと自身の中には揺るがないものが潜んでいるはず。これだけは譲れないというものが。それこそがそのひとの生きる標となる心星でしょう」と。お料理の話だけでない、人生を歩んでいく上での標を考えさせられる物語です。(協会職員・安藤綾子)



### 7月のイベント情報

※いずれも会場はとよなか国際交流センターです。



#### 多文化共生入門

とよなか国流の取り組みを知る

7月13日(金)

13:30~15:00

事務局長・山野上隆史による同センターの外国人支援や多文化共生の取り組みについての説明会。

定員:50人(先着順・申込不要)

参加費:無料

#### おまつり地球一周クラブ

ようこそルーマニアへ

7月21日(土)

10:00~12:00

ルーマニア出身の講師から話を聞き、ゲームや料理を体験する。

定員:15人(先着順・要申込)

参加費:300円

#### 国流シネマカフェ

「JSA(共同警備区域)」

7月28日(土)

17:30~20:00

朝鮮半島の南北軍事境界線上で実際に起きた事件を題材にした作品の上映。

定員:20人(先着順・要申込)

参加費:無料



## 登録グループの活動紹介



No.10 ナイト漢字クラス

——「ナイト漢字クラス」という団体名ですが、漢字中心の学習をされているということですか？

中田：もともとは漢字を重点的に学習したい人を集めて始めました。1998年に始めたのでもう20年になりますが、今は学習者のニーズに合わせています。学習者の「こんなことをしたい」という要望に、ボランティアが個別で対応しています。ほとんどは日本語能力試験の勉強をしています。

——ナイト漢字クラスを始めるまでは国際交流の活動はされていましたか？

中田：興味は昔からあったのですが、私が住んでいる池田市は当時あまり活発ではなかったんです。そんな時に葛西さん((特活)国際交流の会とよなか(TIFA)代表理事)に出会って、TIFAに入ることになったのが、私の国際交流活動の始まりですね。シンポジウムでの葛西さんの話があまりにも良かったので、シンポジウム当日にTIFAに問い合わせの電話をして、1986年のTIFA創立1周年イベントから活動に参加するようになりました。

——センターよりも歴史が長い…!!(笑)そういえば、先日別の団体にインタビューさせてもらった時にも、その方は「1980～90年代は、『市民は世界を変えられる』と国際交流に夢を持っていた時代」とおっしゃっていました。

中田：そうですね。初期は私も含め主なメンバーが3人いましたが、今はみんな高齢化していることもあってなかなか体力的にも「もうしんどいわ～」と言われることもあります。でも、ボランティアや学習者から「こんなことやりたい」という要望が出たときには「じゃあ昔にやったようなお茶会でもしましょうか」と応えられるんです。市民の自主グループには、やりたいことをすぐに実践できるというメリットがありますね。規模が大きくなると、そうはいかないと思います。それと、参加者に希望を募ってTIFAが運営するカフェ「サパナ」に行くこともあります。センターのなかで勉強するだけでなく、まわりの人たちとしゃべりたいという希望があるので、

とよなか国際交流センターには、市民による自主的な国際交流活動を支援するための登録グループ制度があります。実際の活動内容や国際交流への思いを伺いました。

サパナで夜の営業がある時は必ず声をかけることにしています。ナイト漢字からも少し補助金を出しています。

——それ大事ですよ、ひとつの活動にとどまらない。

中田：大事です。定期的に出会うボランティア以外にも、地域の人も来ますから。このクラスのボランティアじゃなくても、「学習者は実際に会話をしながら学んでいくので、ぜひ来てくださいね」というと、また来てくれるんです。学習者も嬉しいですよ。

——今後の活動で、他にもこんなことやってみたい！という計画はありますか？

中田：国際交流フェスタのステージ発表が年に1回ありますが、私のクラスはみんなあの発表を楽しみにしています。当日学習者に自分で司会進行をしてもらうんですが、日本語の能力に関係なく、毎年もうすぐ帰国する人にもしてもらっています。思い出になるだけでなく「重要な司会役をしたんだ」ということが学習者にとっても励みになるんです。発表が終わってからも、ボランティアと学習者に毎回アンケートを取っています。色んな意見が出てくるし、できないものももちろんありますが、みんなが「こんなことがしたい」と出してくれる意見を楽しみに、励みにしています。帰国してしまう人はジョークで「スカイプで参加します」なんて書いてくれるんですよ。

### 【活動についての問い合わせ先】

団体名：ナイト漢字クラス

連絡先：m\_nakata@wombat.zaq.ne.jp (中田)

活動日時：毎週火曜日19:30～21:00

※8月の活動はありません。

### とよなか国際交流センターおしらせ

「こくりゅうだより」第111号(2018年7月号)

発行元・問い合わせ：(公財)とよなか国際交流協会

〒560-0026 大阪府豊中市玉井町1丁目1-1エトレ豊中6F

阪急宝塚線豊中駅すぐ

開館時間：9:00～21:30(貸室受付は20:00まで・水曜休館)

TEL:06-6843-4343 FAX:06-6843-4375

E-Mail:atoms@a.zaq.jp

WEB: <http://www.a-atoms.info/>



SNSも随時更新中！

「とよなか国際交流センター」で検索！

